



東京の少年サッカー

進歩

公益財団法人 東京都サッカー協会
東京都少年サッカー連盟 委員長 吉實雄二

東京都少年サッカー連盟の平成30年度（2018年度）はスタートしました。

本連盟が東京都サッカー協会に4種委員会として出発したのが昭和50年（1975年）ですから今年で43年目になります。全国的にチーム登録、登録選手数の減少が続いている中、登録選手数は3年ぶりに増加し38,985名でした。これも日頃より、少年連盟関係役員の献身的なご努力と、また連盟組織と事業を支えて下さるご協賛各社、父兄の方々等多くの皆さまの深いご理解と強力なサポートがあることを改めて御礼申し上げます。

東京都少年サッカー連盟の2017年度の成果

- 1、「三井のリハウス東京都U12サッカーリーグ」
 - ・705チームが参加し、6,074試合を実施
- 2、ブロックフェスティバル 35回実施（小学3年生以下の対象事業）
 - ・全16ブロック 参加選手7,113名、指導者、父兄 7,739名
- 3、キッズエリート 4回実施（小学4年生対象）
 - ・東京都4エリア 参加選手 351名、指導者118名、父兄 617名
- 4、指導者講習会、審判講習会
 - ・指導者講習会 17回開催 参加人数 547名(C,D級講習含む)
 - ・審判講習会 9回開催 参加人数 417名、
- 5、第28回：関東選抜少年サッカー大会 3年ぶり8回目の優勝
 - ・東京U-12ブルー：優勝
 - ・東京U-12ホワイト：3位

2017年度の新たな事業

- ① TOMAS「東京都3年生サッカー交流大会」
 - ・普及事業の一環として今までに実施していなかった低学年の交流会を96チームの参加で3月に開催。参加選手1,582名
- ②「東京FA会長杯サッカーフェスティバル」（ミニサッカー）
 - 都内全域の少女選手を対象に3月に開催。参加選手630名

- ③ 東京都U-11女子選抜の海外遠征
東京都少年サッカー連盟で初めての女子チーム単独の海外遠征の実施。
- ④ 少年連盟役員（ウエルフェアオフィサー・ジェネラル）によるマッチ ウェルフェアオフィサー取得、更新講習会の実施。受講者は200名

2018年度の少年サッカー連盟では、目標を次のように設定しました。

<よりよい環境づくり>

- *選手の育成、指導者の育成、審判員の育成を行うために将来のビジョンを確認して実施する。
- ・指導者講習会、C,D級取得講習会、トレセン活動
- ・審判講習会、ユース、女子審判育成
- ・選手派遣事業、サッカー講演会、児童理解の講演会
- ・選手にとってより良いプレーができる会場の確保<人工芝、天然芝>
- ・全ブロック統一の規約作成

<安心、安全な事業運営への取り組み>

- ・大会時の救護体制、個人保険カード携帯
- ・選手派遣事業へのトレーナーの派遣
- ・医事講習会

<暴力、暴言の指導根絶について >

マッチウエルフェアオフィサーとして競技会場におけるリスペクト精神、フェアプレーの啓発、促進及び暴力、差別等予防活動等少年連盟の窓口を開設。クラブウエルフェアオフィサー講習会の実施。

<熱中症予防、対策 >

<課 題>

- ① 指導者育成（ベンチ入り指導者D級以上保有の2019年完全実施へ向けて）
- ② 審判員育成（女性審判員、ユース審判員、4級審判員のフォロー）
- ③ 1、2年生の事業を実現に向けての企画（2020年に向けて）
- ④ 天候に左右されない会場確保

最後になりますが、少年連盟には大会などに多くの協賛をいただいております。改めて感謝申し上げますとともに、その趣旨を生かすべく一層の努力をしたいと思います。